



## 飛べ！安達太良山の火口まで！！

～UAVを用いた写真測量による積雪調査(検証試験)を行います～

現在、安達太良山の火山活動は落ち着いていますが、冬期に噴火した場合、噴出物の熱により積雪が解け、『融雪型火山泥流※』が発生する可能性があります。

融雪型火山泥流の到達範囲を想定するためには、想定火口周辺の積雪深を正確に把握する必要がありますことから、UAVを想定火口まで飛行させ、写真測量技術を活用した積雪深調査(検証試験)を行います。

※積雪期の火山において噴火に伴う高温の噴出物(火砕サージなど)の熱によって斜面の雪が融かされて大量の水が発生し、周辺の土砂や岩石・木を巻き込みながら高速で流下する現象。北海道の十勝岳で1926年(大正15年)5月24日に発生した融雪型火山泥流では、現在の上富良野町市街地で大きく氾濫し、144名の死者・行方不明者を出す大惨事になりました。

1. 日 時 : 令和3年1月28日(木) 10:30～11:00
2. 場 所 : 母成峠駐車場
3. 試験内容 : 母成峠駐車場から沼の平(想定火口)までUAVを飛行させ、写真測量に必要な航空写真を撮影する。
4. 参加者 : 国土交通省 福島河川国道事務所  
福島県砂防ボランティア協会
5. その他 : **取材の際は、1/28(木)9:00迄に御連絡をお願いします。**  
**(天候等により中止となる場合お伝えします)**

また、取材される方は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、手指の消毒、マスク等の着用、参加者間の適切な距離確保等をお願いします。  
また、事前の検温等により発熱等の風邪症状が無い事をご確認下さい。

記者発表先 : 福島県政記者クラブ、福島市政記者クラブ

### 【お問い合わせ先】

- 国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所  
TEL : 024-546-4331(代表)  
ホームページ : <http://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/>

専門調査官 三浦 英晃  
建設専門官 山内 尚也

# UAVを利用した安達太良山火口周辺の積雪調査(検証試験)

## ● 調査の目的

活発化した火山において、火口周辺の積雪量を迅速に把握する手法の確立

- 冬期に安達太良山が噴火した場合、融雪型火山泥流が発生する可能性がある。
- 融雪型火山泥流の流下範囲を想定するためには、火口周辺の積雪状況を把握することが必要。
- 安達太良山の想定火口周辺（沼の平）は立入禁止のため、積雪観測が困難。  
⇒UAVを利用して積雪を把握する手法を確立することが重要。



安達太良山の位置



融雪型火山泥流の事例  
(十勝岳 1926年噴火)





# UAVを利用した安達太良山火口周辺の積雪調査(検証試験)

## ● 今回の検証試験計画

### 使用機体

- 火口周辺調査には片道5km以上の長距離飛行が必要。
  - 長距離飛行には固定翼機の信頼性、安定性が高い。
  - 垂直離着陸型の機体であれば滑走路がなくても調査が可能。
- ⇒ 垂直離着陸型固定翼 (VTOL) のUAVを利用



位置図



飛行ルート(詳細)